

平成 18 年 5 月吉日

～日本採卵養鶏産業研究会・第 4 回研究セミナー開催のお知らせ～

主催：日本採卵養鶏産業研究会

後援：福島県養鶏協会、PPQC

桜の花びらも散り、風薫る季節となって参りました。過去に開催されました 3 回の研究会では活発な議論を賜わり、感謝申し上げます。

さて、不幸にも昨年 6 月 27 日茨城県旧水海道市に端を発した鳥インフルエンザ(LPAI)は、同県の生産者はもとより、養鶏業界にも多大な影響を与えました。紆余曲折の上、やっとと言うべきか、監視下にあった鳥インフルエンザ抗体陽性鶏の処分が、2006 年 4 月 21 日に終了したとのことです。

今回の鳥インフルエンザの発生では、行政対応、鶏の処分問題、補償問題、検査体制、コンプライアンス問題ならびに経営再建問題など、極めて広範囲にわたる課題や問題が浮き彫りになりました。

生産者サイドの責務として、当事者の立場から有事における経営再建について、クリアすべき課題を整理し、議論を深めることが必要ではないかと考えております。

昨今のニュースでは、農水省は『茨城における抗体陽性鶏の処分が一段落した時点で、弱毒タイプ AI の防疫対応案を検討する』としています。

生産者サイドで総括した内容を踏まえて行政側とも前向きに話し合い、具体的な調整を図ることが極めて重要であると思われまます。

海外に目をむけますと、世界の各国で強毒タイプの鳥インフルエンザ (H5N1) の発生が問題となっており、アジアの諸国では感染した人が死亡するという悲劇が続発しています (合計 133 人で死亡率は 50%を超える)。日本へ渡ってきていた白鳥やカモも故郷へ戻り、ヨーロッパからシベリア等へ帰還した渡り鳥と接触することにより、HPA I ウィルスに感染する可能性も指摘され、日本で本年の秋以降に、強毒タイプ AI 発生が発生する可能性が危惧されています。

こうした条件を鑑みて、昨年我が国で発生した弱毒タイプの AI (H5N2) についての総括を行い、また強毒タイプの AI (H5N1) に対する備えについて、真剣に考えることが急務であろうと思ひます。

今回、日本採卵養鶏産業研究会では、第四回研究セミナーのテーマとして、昨年 (第 3 回) に引き続き AI 問題を取り上げたパネルディスカッションを計画しました。

茨城県の AI 発生問題の総括 (第一部) と強毒タイプ AI (H5N1) (第二部) について取り上げ、生産者のみならず、行政、AI 研究者、流通関係者、消費者などを交えたパネルディスカッションを通して、AI に対する意識を共有することが目的です。

乗り越えねばならない種々の課題についての、腰を据えたディスカッションを通して、鳥インフルエンザに対しての業界の進むべき方向性を模索することができれば、この上ないと考えております。

各テーマの概要を、下に簡条書きに記しましたが、テーマごとに、その道の専門の方々を選び、偏った意見が集中することのないよう、また、各分野のパネラーの方々が自由な主張を交わせることを目的としたいと思います。

【パネラー予定者】

司会：加藤宏光 先生（本会代表・農学博士・獣医師）

- 1) 行政：農林水産省、家畜保健衛生所の先生方（茨城県）（調整中）
- 2) 学術：大槻公一 教授（京都産業大・鳥取大）
- 3) 臨床鶏病獣医師：合田光昭 先生（JA あいち）
- 4) 流通関係者：伊藤正史 先生（イトヨーカドー-QC室食品担当マネージャー）
原英二 先生（東京マイ・コープ・理事付）
- 5) 消費者代表：適当な消費者代表を人選中です
- 6) 生産者（各会場の出席者の皆様）

このような方々に一同に集まっていただき、テーマごとにできるだけ時間をかけてディスカッションを重ねて、各分野で考えられる問題をできるだけ拾い上げて行きたいと考えています。

<研究会の運営に関して>

日本採卵養鶏産業研究会は、本来独立した研究会として発足しましたが、今後とも採卵養鶏の生産現場において重要なテーマを取り上げ、公共性をもった研究会として育つことを目標としております。

つきましては、参加者の各皆様に会員登録の賛否について、研究会当日にご確認させて頂きたく存じます（会費は、当面は研究会開催時における参加費をもって代える予定）。

また、参加者の中からテーマの選定や会の運営にご協力頂くための委員を選出し、運営委員会等を設置することについてもご相談したいと考えております。宜しくご協力くださいますようお願い申し上げます。

(開催要領)

1. 日時

第一日目 平成 18 年 6 月 22 日 (木) 午後 1 時 30～5 時 00 分

第二日目 平成 18 年 6 月 23 日 (金) 午前 9 時～午後 4 時 30 分

2. 場所：福島県二本松市岳温泉：陽日の里_あづま館コンベンションホール

TEL：0243-24-2211 ※送迎バス＝ 郡山駅、福島駅、二本松駅⇒会場 (アクセス：別紙)

3. 内容

第 1 部：茨城県で発生した AI の総括

(1) 経営再建のシミュレーションの紹介

源氏鶏太 (鶏卵肉情報連載) の養鶏場を題材にして

講演者：奥田和久 先生 (大栄ファーム・顧問)

(2) AI 被害を受けた生産者、ならびに関連業者の意見総括

(3) 総合討論

第 2 部：強毒タイプ AI (H5N1) への備え

(1) 我が国の鳥インフルエンザ・モニタリングの最新情報紹介

講演者：伊藤壽啓 教授 (鳥取大)

オランダ、フランスにおける AI についての意識

講演者：加藤宏光 (PPQC)

上海における AI への意識

講演者：伊藤正史 先生 (IY・QC 統括マネージャー)

(2) PPQC で実施したモニタリング・データの紹介

講演者：ランディ・ラブツ (通訳) 白田一敏

(3) ワクチン使用の問題

(4) 流通・消費者マインドを考える

(5) 総合・討論

4. 参加費：1 人 金 25,000 円 (口演要旨代金・宿泊費を含む)

※宿泊を希望されない参加者 1 人 金 15,000 円

第二日目の昼食：希望者は、総合受付で引換券を購入可能 (1000 円程度)

(ホテルの外に、食堂やコンビニエンスストア等があります)

5. 事務局・担当：株式会社 ピーピーキューシー研究所内・総務

TEL：(代表)0243-24-2523 FAX：0243-24-2657

研究会の情報は、下記のホームページに順次掲載の予定です。

(URL: <http://www.ppqc.co.jp>)

第四回 日本採卵養鶏産業研究会・参加申込書
 (平成 18 年 6 月 22 日-23 日開催、福島県二本松市岳温泉、ホテル陽日の郷あづま館)

平成 18 年 月 日

日本採卵養鶏産業研究会
 事務局
 株式会社 ビーピーキューシー研究所 FAX 番号：0243-24-2657
 (平成 18 年 5 月 31 日までにご返送頂きたく存じます)

— 申込書 —

御社名

住所：〒

TEL：

FAX：

記

該当箇所を○で囲って下さい。

	参加 人	不参加	
● 出欠			
● 参加人数	()		
● 参加者ご芳名	()	()	()
		()	()
1)	()	()	()
2)	()	()	()
3)	()	()	()
4)	()	()	()

※ ご芳名にフリガナも記入頂けますようお願い申し上げます。
 ※ 宿泊については、○をつけて下さい。

※第二日目 (6/23) の昼食について
 会場の岳温泉内には飲食店やコンビニエンスストアがございますので、そちらをご利用することも可能ですが、ホテルでお弁当 (1000 円程度) を準備することも可能です。希望者の方は、下記の申込み欄にも併せてご記載願います。当日、総合受付にて代金と引換に、弁当引換券をお渡しする予定です。

○をつけて下さい。
 お弁当を希望します (名分) ・希望しない